



# 香葉

第7号

通算38号

関東学院女子短期大学

香葉会

発行人 山口佳子

代表 横浜市金沢区

六浦東1-50-1

直通・FAX 045-787-0678

E-mail: kouyoukai@nifty.com

URL http://homepage3.nifty.com/kouyoukai/

## 田浦梅林の散策

- 日程 平成22年2月13日(出)
- 時間 午前10時(集合)～午後2時(解散予定)
- 昼食 (お弁当、飲み物)持参
- 場所 JR田浦駅(横須賀線)
- 会費 1,000円(資料・保険代など)
- 申し込み方法  
香葉会事務局までFAX・往復はがき・Eメールでお申し込み下さい。  
準備の都合上2月3日までにお願い致します。  
FAX 045-787-0678  
Eメール kouyoukai@nifty.com

大船、鎌倉、逗子を通り過ぎ、少し足を伸ばして早春の田浦梅林に行ってみませんか？  
ここは三浦半島最大の梅林で約二七〇本の梅が咲き誇ります。  
梅のほのかな香りと新鮮な空気をおもいきり吸ってリフレッシュしましょう！  
お友達をお誘いの上、多数の方のご参加をお待ちしています。歩きやすい服装でご参加下さい。



## 山手西洋館散策

- 日程 平成21年12月12日(出)
- 時間 午後1時集合
- 場所 港の見える丘公園入り口
- 会費 1,000円(資料・保険代など)
- 申し込み方法 同上
- 申し込みは12月2日(火)まで。



昨年と同様に精木先生に詳しく説明していただきながら、各国個性のあるクリスマスイルミネーションを楽しみ、異国情緒にひたってみませんか。  
西洋館見学は、靴を脱いでスリッパにはきかえます。



## 山手西洋館散策

## 陶芸教室

- 日時  
成形：平成21年10月31日(出)  
10時～12時  
色付け：11月28日(出)  
10時～12時
- 場所 関東学院大学  
室の木7号館(陶芸棟)
- 会費 3,500円
- 持ち物 エプロン・タオル
- 申し込み方法 同上
- 申し込みは10月20日(火)まで。

欲しい形に好きな色。  
自分だけの作品が出来上がった時、陶芸の魅力にとりつかれる事、間違いないです！  
今年も奮ってご参加下さい。  
今回も二日間です。  
成形には必ずご参加下さい。(色付けはお願いすることが出来ます。)

陶芸教室へのお誘い

## 合同カミングデー開催 125周年記念

室の木校地において短大卒業生と人間環境学部の卒業生と一緒にホームカミングデーを開催致します。

- 日時  
11月8日(日) 10:30～ 集合  
11:00～13:00 懇親会  
13:00～ 個別懇親

当日、六浦校地にて小泉純一郎氏の講演会(燦葉会主催)が午後1時に予定されています。  
詳しい事は、後日ホームページをご覧ください。

## 会長挨拶

山口佳子(国1)

### 一二五周年事業からの発信

「香葉」第七号を発行する時期になりました。

今、関東学院が一つになって一二五周年事業が進められています。

香葉会活動として「日本画教室」「陶芸教室」がありますが、その発表の場として「展示会」をメディアセンターで行い、一二五周年事業に参加することができました。展示を行う際には、手仕事をなさる方の作品も展示させていただきました。今後もビエンナーレかトリエンナーレとして発表の場を広げていくことができるようにしていきたいと考えております。

「伝統は長い時を経て生まれ、継承されていく」ことをこの事業で再認識しています。その考え方に伴い人材の大切さを思います。卒業生の中に色々な個性や能力を持っている方が数多くいらっしゃる事がわかりました。伝統のある学校は人材も縦系横系を紡いでいくことによって人間関係も大きく育ち繋がりが増えが育ち増していくように思えます。

香葉会の活動はそういったわけで「香葉」の発行をメインとしています。ここから卒業生の活動を知ることが出来ます。散策は通学の折に行ってきたけれど行かれなかった処をコンセプトに家族が揃って楽しむことが出来る場所としています。

皆様に読んでいただける「香葉」を作り考える時、「卒業生の方々から

お便りや同窓会をしました。」というお知らせを載せられることが本当に嬉しいことなのです。

そしてこの同窓生パワーを海外の支援活動や環境を守る活動に向け人間環境学部を取り組みとコラボレーションできると思っております。

こんな活動をして欲しいというところがありまして、お便りをお寄せ下さい。今年も元気に活動して参ります。どうぞよろしくお願いたします。

### ミャンマー緊急救援活動に

#### 対する支援のご報告

二〇〇八年五月ミャンマーはサイクロンに襲われました。二四〇万人が被災。死者、行方不明者は十五万人といわれる災害でした。雨期の始まりの被災は洪水に寄る二次災害をもたらしマラリア、 Dengue熱が流行、今後も勢いを増す事態にありました。古城前会長のもとに、ヤンゴンで医療活動を行っているサイモン・タ医師からの支援要請が医師・林健太郎氏に届きました。が、折から中国四川の地震と重なり、また国内不況もあり支援は困難と思われました。

悩んでおりました時、地域の新聞にミャンマーで十数年前から学校の支援活動をしていらつしやる広池ご夫妻の記事が載っていましたので、事情を話し募金を届けていただくようお願いをしました。驚いたことにご夫妻は、通常の活動募金を今回の活動のために寄付をしてくださりました。香葉会からの五〇〇\$とミャンマーを訪れてくださったご夫妻からの募金は無事ヤンゴンのサイモン医師に手渡され、感謝のお手紙をいただきました。

## 猿島や要塞跡に秋の風

精木 勇

元関東学院短期大学講師／櫛精木建築美術研究所主宰

二〇〇八年十月第二十回燦建展(大学建築OB展)に、「猿島公園管理施設」の作品パネル(長谷川一久設計・環境デザイン研究所勤務)が展示されていた。展の会期中に島を訪ね施設を見学してみたいと思っていた矢先、十月十八日に香葉会開催の猿島散策がなされることを聞き知



り参加。猿島への乗船場は三笠の艦尾近く。当日は「天気晴朗なれど波高し」※。ほぼ十五分で猿島。南北が約四五〇m、東西が約二〇〇m、横浜スタジアムの四倍の面積五五、五〇〇㎡、標

高四〇mの小島。下船したところの眼前に管理施設あり。木造建物で独特のぬくもりがあり、屋根が大きくカーブする。全体のフォルムが美しく映える傑作。一行は切り通しの坂道を徐々に北へ。歩くうちに目を疑う。円形アーチを持つ出入り口と小窓を持つ煉瓦造のファサードが次々といくつも並ぶ。ローマ遺跡を彷彿とさせる。「ローマ建造技術は煉瓦とコンクリートとアーチが基本。煉瓦の積み方にはフランス式とイギリス式があり、ここの積み方はフランス式。」などと一行に説明をすることになる。何の、誰のための施設？

案内碑によると、これらは明治、大正、そして昭和の大戦が終わるまで使われた要塞施設の弾薬庫である。日本は黒船以後軍備拡張。海軍のもの、陸軍、また海軍のものと所有が変わりながら続いた要塞にいかほどの国費が投入され、建設工事に人々の汗と涙と血がどれほど流されたことか。東京湾唯一の自然島で夜は無人の猿島は、自然林と歴史的的文化遺産が共存する極めて貴重なところであることを深く認識した。香葉会の素敵なご婦人方一行とともに島をくまなく巡った散策、そして横須賀での昼食懇親会にて談笑したことはいづれも大きな収穫であり、良い思い出となる。感謝

※戦艦三笠上の東郷元帥が海戦を始める前に唱えた有名な檄言葉の一部。



葉の原稿もついこの間書かせていただいたような...。

でも確実に年月は動いて、高校二年生でこちらに来た娘がこの六月にコミュニティ・カレッジを卒業しました。今回は卒業式をレポートしたいと思います。

アメリカの新学期が九月だということは、周知の事実で、かなり意識していましたが、年度末はあまり意識していませんでした。三年前に娘が高校を卒業した時、五月に入ると卒業のイベントの案内が続々と届き、六月末にカリフォルニアの青空の下、屋外での卒業式が行なわれました。外で行なわれるだけでもビックリ！しかも夕方六時頃から始まりまして。初めての体験でしたので、私はかなり感激していました。

その後娘がカレッジに進み、車の免許を取得し、自ら運転して通学。夏休みも冬休みも単位を取る生活で

皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。早いもので私がアメリカに来てから五年目に入りました。毎年言っています。早く、この香



した。でも、毎年六月になるとお店では卒業グッズが売り出され、女の子たちは卒業パーティーのドレス探しに奔走する。五月になるとこの辺りではジャカランダという花が、まるで日本の桜のように咲き、その花の鮮やかさと共にセレブレーション気分が盛り上がります。

娘は当初カレッジの卒業式には出席しないつもりでしたが、私が頼み込んで、どちらかと言うと渋々出席したような感じでした。でも、卒業式後は二人で「いい卒業式だった。出席して良かった」と喜び合いました。

のまま席に着くのかと思うと、途中で二列に分かれて止まりました。そうです、卒業生を迎えるために止まったのでした。この粋な入場に娘も感動していたようです。

卒業式のハイライトはやはり卒業証書授与。昔私たちの短大でも一人ひとりに証書が渡されましたが、同じように手渡しをしてくださいます。なかなか合理的だと思ったのは、

卒業生の名前を呼んで証書を渡してくださるのですが、名前を書いた用紙を本人がマイクの前の先生に渡し、その足ですぐ目の前にいる先生のところに進んで証書をいただくというシステム。卒業生が必ず式典に出席するわけではないこちらの大学のやり方だと思いました。

### 二五周年記念展示会報告

(H21年1月17日より2月14日まで)

地の利の良い関内メディアセンターに於いて、初めての試みとして、日本画教室と陶芸教室の発表を中心として、香葉会会員の作品を募集して開催しました。

メディアセンターの広いロビーの壁面とコーナーを使って、日本画・陶芸・ビーズ刺繍作品・パッチワーク・人形・書と精木先生のパネル・三塔物語の絵を飾りつけ、ロビーが急ににぎやかになりました。

メディアセンターの職員の方々のご協力を得て、約一ヶ月間発表できました。沢山の方々に足を運んでいただき、ありがとうございます。

最終日は、ジャック・キング・クインの三塔物語を精木先生に講演【一月十四日】をお願いしました。旧年度委員の方にも集まって頂き【一月二十七日(火)】、久しぶりに

た。観客席の親や友達もまるでアイドルのコンサートのような歓声を上げて喜びを身体で表現していました。コミュニティ・カレッジの学生は卒業後四年制大学へ編入したり、また、社会人も多く、年齢も人種も様々でした。わが娘もこの後どういう人生を歩むのか。楽しみにしつつ会場を後にしました。

皆様にお会いでき、楽しいひとときを過ごす事が出来ました。

【一月三十一日(土)】ビーズ刺繍講習会開催。講師・高石和枝さん(国4) 一、二年後にはロビーをお借りして又この催しを企画したいと思いません。(愛)



## 短大と共に

元事務次長 中村 英夫



「この人、誰？」と思う方が多いかと思えます。私は今年三月に関東学院で六五歳の定年を迎えた事務職員です。一九六七年（以下、西暦の下二桁で記す）に専任職員に採用され、以後〇四年三月、短大最後の卒業生四名を見送るまで短大で働かせていただきました。さらに細かく言うと、六二年五月末から六五年十二月まで当時、英文科第二部（夜間部）があり、この事務室で学生アルバイトとしても働かせていただきましたので、足掛け四十年と半年、短大に関わってきたことになりました。

専任職員としての最初の配属先は学生課（通算七年）、その後は庶務課（十年）、入試関連課（十一年）、教務課（十三年）、就職課（七年）と兼務を合わせカッコ内の年数関わってまいりました。特に六七年から三年間の学生課時代と九三年からの就職課時代は仕事柄、学生の皆さんと親しく交わらせていただき、感謝しております。

短大での思い出は際限無く蘇りますが、短大のさまざまな資料や記録は関東学院の学院史資料室にありますので、ここで一つ一つ挙げることは省かせていただきます。ただ、短大に関わった当初は、正門に校名さ

えなかった関東学院短大が共学の英文科第二部を廃止し、国文科を増設して女子短大となり、栄養士養成を始めとして幼稚園教諭及び保育士養成という技術教育を導入して飛躍的に発展し、八十年代には全国有数の規模の短大となり、入学も難関校の一つになりました。これには歴代学長のリーダーシップ力も大きいですが、やはりここで学んだ学生さんの努力が一番の影響を及ぼしたものと思います。入学のために学力を養い、在学中に教養と人間性を深め、卒業後は社会人として活躍。この卒業生に接した人が関東学院女子短大のよさを高校生に伝え、と良い方へ、良い方へと歯車が回った結果だと信じています。

時代の流れで短大は大学人間環境学部部に改組転換しましたが、校地、校舎はそのまま使い、短大奨学金（元後援会奨学金）も人間環境学部学生のため「女子短期大学記念奨学金」という名称で運用されています。短大当時の奨学金が今も引き続き返済して下さっており、感謝です。

短大が無くなっても半生を「人になれ 奉仕せよ」の校訓を掲げたことで働けたことは私の誇りです。終わりにこの短大で学んだことが幾つになっても卒業生、皆さん方の誇りであり、生きる力であり続けましょう。お祈りいたします。

## 在学時代の思い出

前納順子（女専英2）

卒業してから半世紀以上、八十才前後ともなれば、昨日のことも忘れがちな今日此の頃ですが女専時代の事は好く覚えていてます。

暑い夏には、汗をかきながら登った三春台校舎への坂道、寒い冬には暖房もなくコートを着たまま授業を受けた階段教室、何もかもないないづくしの学生生活でしたが、大きな希望と沢山の夢で充実した毎日を過ごした気がします。若さにあふれた恐いものなしの青春時代でした。テレビもパソコンも携帯電話もない時代、何でも自分の目と足で時間をかけて調べ納得したものでした。手間のかかった分だけ自分の財産になったような気がします。

劇団から借りてきたかび臭い衣装で演じたシェークスピア劇、最初の「ベニスの商人」と次回の「お気に召すまま」、今思えば原語を覚えるだけで精いっぱい味の味もそっけもない舞台でした。

又秋の文化祭には、今も御活躍の学院卒の神谷量平氏の書きおろしで、相川校長、神谷氏両先生の演出の舞台もふませて頂きました。クリスマスには今の横浜スタジアムの所にあった進駐軍のセントラルチャーターで歌った讚美歌も忘れられない思い出です。

今上陛下の皇太子時代、御養育係として、英国から招かれたバイニング夫人のお話をうかがった講堂、そ

して今は亡くなられてしまった昭和天皇の御長女、照宮成子内親王をお迎えして何やらえらい方々にお目にかかった、タッピング先生のお宅での事。思い出はつきません。

「人になれ 奉仕せよ」のキリスト教精神に基いた校風で育てられた私達は、現在の自分さえ好ければという考えの多い人の中で、しっかりと自分を見失わず、これからも残り少い人生を、健康で楽しく生きてゆけたらと思います。

## 古い話

志賀ミチ（英9）

短大時代の思い出を書くと言っても、我ながら驚くもう半世紀も前のことです！記憶も定かではありません。思い出話は共有する人には懐かしくても、後の人達にはどうなのかと思ったりもし、かなり書くことを躊躇しました。

「当時は…」と考えていきますと、学校の前は川ではなく湾でした。平潟湾が大きかったです。対岸に見えたのは金沢八景駅の手前にある小山です。校舎は歩くとぎしぎしと音がする木造で、大学と短大は同居状態でした。礼拝、多くのクラブ活動やさまざまな学校行事は共同で行っていました。大学はほとんどが男子学生で、短大は女子のみということどうまくいっていたのでしょうか。

私はE.S.S. (English Speaking Society) に属していました。活動

は男子学生指導で行われ、英語の勉強も少しはしましたが、社交ダンスを教えてもらい、パーティーがとても楽しかったです。ワルツ、ブルースが基本で、チャチャチャやジルバが新しくかなりワイルドなステップと思われました。当時はフォークダンスは盛んで、大学祭の時などにグラウンドで行われました。ESSの活動の最大はやはりシェークスピア劇です。英語指導、プロによる演技指導、本格的な衣装や舞台、関東学院の伝統となる大きな行事の始まりの頃です。私はメインな部分ではありませんが二年間かかりました。これは大きな思い出です。

思い出を掘り起こしたのですが、私たちは卒業式に着る黒いガウンを手作りしました。裁断して渡されたものを各々が縫ったのです。私は自分でミシンをかけたのか誰かに頼んだのか覚えていません。でもみな無事に黒いガウンを揃え見事な卒業式ができました。卒業晩餐会は教養としてのテーブルマナーを学ぶ時として大切にされホテルで行われました。



## 変わりゆく過ぎゆくものへ

八ツ波節子(国7)

朝、目覚めるごとに深さを増し色濃く重り合う線の美しい季節になりました。光さえも風さえも透明な緑となり、何て美しいのだとひとり庭先で思うのです。



八ツ波さん(中央)

関東学院のキャンパスに足を踏み入れ、五木寛之の「青春の門」を読みながら、物想いにふけていた遠い日々の私。懐しく温かな時の流れです。まして私は学生寮での生活で寮生五十人と共に先輩、後輩と寮母さん、皆に囲まれた二年間の中で多くの事を学んだように思います。昨年寮生活を共にした国文科のOさんNさんと再会を果たす事ができ、時を越えて昨日の事のように傍らで語り合っている私たち。私が私にもどってゆくように、当時の光や空や

風が蘇るのです。穏かに心に広がりました。積み重なった一つの時代ですね。

関東学院のキャンパスがどのような変化し、私たちが生活した学生寮がどのような形になってしまっているのか、想像もつきませんが、歳月は留まることなく流れ行き、変化は日常に起こり、永遠に変化なく存在するということはありませぬ。諸行無常です。

その変わりゆく姿に惜しみなく拍手をして、私たちが過したあの頃の思い出は、永遠に心の中に残す事にしましょう。

あの頃の時を共有した、先輩たちの、後輩たちの、寮母さんの、そしてキャンパスの学友の、あの笑顔はいつまでも輝いたまま、忘れる事はありません。ありがとうございます。

二井星美(国26)



(無題)  
想い出は  
人に寄り添うものならば  
短大での  
時間を共にした友人たち、  
まさにそれは  
いまへ繋がる財産。

## 関東学院

### 125周年記念事業

- 9月22日(火・祝) 音楽祭 燦葉会主催  
10月7日(水) 祝祭コンサート  
12月18日(火) 学院クリスマス

詳細についてはホームページをご覧ください。  
または関東学院へお問い合わせ下さい。

国文科でお世話になった先生の著作をふと書店で見つけ、感慨。  
実家の大掃除でひらりと現れた学生証、写真にひと笑い：  
そして  
いまの自分が、ある。  
教室も 校舎も  
芝生も チャペルも  
海風も お喋りも  
学祭も パイプオルガンも  
すべて  
ひとりひとりの卒業生のなかに静かに溶けて待っているだろう。

# 下田哲先生を偲んで

笹田 洋子 (家12)

「神のなされることは皆その時に  
かなって美しい。」伝道の書三章十  
一節 先生がお亡くなりになる二ヶ  
月前の手帳に「人生に感謝する。」  
と記してあったそうです。先生の八  
十一年の長い人生の中で、私が初め  
て先生にお会いしたのは五十数年前  
関東学院教会へ行った時でした。先  
生は副牧師をされていました。その  
後短大で一年間教えていただいたの  
ですが、どの様なお立場であって



淡々として一歩後に下  
がって考える静かなお  
姿は、私の青年期に深  
い影響を与えていただ  
いたと感謝していま  
す。今この時に改めて  
思い出されることは、  
先生のお宅へ伺うとい  
つもの様な時でも同  
じ表情、同じ言葉、同じ口調で「やあ、  
いらっしやい。入りなさい。」と招  
いて下さったことです。静かに話を  
聞いて下さったことを覚えていま  
す。又教会青年会での楽しかった出  
来事も一緒に共有して下さってい  
て、何年経ってもその時の事を楽し  
そうになつかしむように話されて集  
まっている私達もすぐにタイムス  
リップして話が盛り上がり、楽しい  
時を過ごすことが出来ました。この  
当時の私達に「会いたいようなの  
……」と奥様から昨年十月にお電話  
をいただき、先生の中でもなつかし

く思い出される一コマであったこと  
を確信出来てとてうれしく思いま  
した。  
二十七年前に書かれた『平和』の  
ことについての文章を読ませていた  
だきました。「平和は確かに政治の  
問題であるが、それ以上に個人個人  
にかかわる最も深い内面的な問題で  
ある。感情に走らず、自由で平静な  
心をもって真の意味の『平和をつく  
り出す人』であることを願う。」(学  
報No.24道標よりの一部  
分)

先生から受ける印象  
そのもののように感じ  
ました。核兵器、地球  
温暖化、エコの問題が  
叫ばれている昨今です  
が、先生の願いを祈り  
としてその祈りに重ね  
て歩んでゆきたいと思えます。時代  
の流れとはいえ短大がなくなってい  
まったことに寂しい思いがありまし  
たが、先生も闘病生活の中で入院先  
の病室から短大の十字架をみて、手  
帳には「なつかしくもあり、さみし  
くもあり」と記してあったそうです。  
先生が一番好きだった五月に大好  
きだった模型機関車のブレーキをご  
自分で引くかのように静かに呼吸を  
とめ主のもとに召されたとのこと  
です。先生のご平安を心よりお祈り  
申し上げます。そして主のお導きに  
感謝します。

私が関東学院大学に学んだ昭和四十  
年代には女子短期大学は大学と同じ敷  
地の六浦キャンパス(現S.C.C.、十一  
号館)にあり、当時女子学生が少なく  
時代にあつて華やかな雰囲気キャン  
パス全体にあつた記憶が今も残ってい  
ます。しかしながら、大学紛争・生協  
問題と学院にとって重大事件が発見  
し、昭和四十七年室の木校地に体育館  
を建設。続いて三号館、一号館・二号  
館と開発が進み昭和六十二年にチャ  
ペルが完成し、日本でもトップクラスの  
偉容と内容を誇る短  
期大学と成長しまし  
た。

一方、時代は進み  
男女雇用機会均等法  
の制定、高学歴社会、  
少子化等女子短期大  
学を取り巻く社会情  
勢は激変し、平成十  
四年三月に女子の短  
期高等教育の使命に  
終止符を打ち四年生  
大学として人間環境  
学部が誕生し現在に  
至っております。

**母校ニュース**  
(室の木ニュース)

庶務課長 澁谷善雄

関東学院女子短期  
大学の名前が無くなった現在でもその  
精神・気質・感性は、英文・国文科及  
び経営情報学科は現代コミュニケーション  
シオン学科と、幼児教育科は人間発達  
学科と、家政科は健康栄養学科及び人  
間環境デザイン学科と、それぞれ名称  
を変え脈々と受け継がれています。  
人間環境学部は我々(人間)の身の回  
りのものを全てを「環境」として捉え、  
各学科はそれぞれの角度から人間と環  
境との関わりについて科学し、二〇〇

七年二月には日本環境認証機構よ  
りISO14001:2004を学部として取得、  
二〇〇八年には人間発達学科に女子短  
期大学時代からの保育士及び幼稚園教  
諭養成に加え、初等教育の重要性が再  
び叫ばれている社会ニーズに答えるべ  
く小学校課程を設置し、より豊かな社  
会と人間関係を構築するため各側面で  
「環境と人間」を支え得るスペシャリ  
ストを養成するため発展を続け、更  
には学部の念願であります大学院設置に  
向け現在検討中であります。一方施設  
面では、改組に合わ  
せ旧教職員アパート  
の敷地に平成十四年  
三月に校舎(エテル  
二)を建設しまし  
たが、今後の将来計  
画に呼応するため新  
棟建設を含む室の木  
キャンパス再開発計  
画も進行中で、教育  
環境の充実に向け整  
備を進めて行きたい  
と思えます。

また、学生生活の  
支援に関しても女子  
短期大学の原資を使  
わせて頂き、お陰を  
持ちまして今年第  
一期の女子短期大  
学記念奨学金募集  
を実施致しました。  
私達の使命は学生  
にとって女子短期  
大学の精神と感性  
を将来に向け最大  
限活かすことであり  
、その実現のため  
一層の努力と精進  
に励みたいと思  
います。  
最後に、林学長・  
上市事務長を始め  
とする現在の礎を  
築いて頂いた諸先  
生・諸先輩の方々  
の貢献に心より感  
謝致します。

### 国文科一期生ミニ同期会

沖野啓子(国1)



あまり疎遠にならないようにたまには近況を教えあいましうと始めた「国文科の便り」数カ月に一回のメールが何となく続いています。そんな中で

「この春、会津の桜を見に来ませんか？」とお誘い。「わぁ、いいわね」と話はトントン拍子に進み、四月十三日の会津若松東山温泉同期会が決まりました。計画中に三人が前泊を希望。会津若松の市内探訪も予定に組み込まれました。当日は素晴らしい晴天。東北新幹線の郡山駅から磐越西線に乗り換えて会津若松駅へ。磐梯山はまだ雪が残る美しい姿を見せていましたが、気温は思ったより高く、少し固そうだった桜の蕾がいつせいに花開いたようでした。市内観光は在住のIさんの案内で手順よく進行。阿弥陀寺で御三階という鶴ヶ城から移築した貴重な建物を見、七日町の通りを懐かしい時代をふり返りながら歩きました。末廣酒造の嘉永蔵では屋根の鬼瓦近くまで



登って見せていただき、部屋の中も説明してもらって感激でした。野口英世青春通りから賑やかな神明通りに出て蒲生氏郷の墓へ。昼食にはお蕎麦の定食を。「こづゆ」という「まめふ」の入った郷土料理と鯉が美味しく、餡がいっぱい入った「まんじゅうの天ぷら」も珍しかった。旧滝沢本陣から飯盛山への途中にさざえ堂という、螺旋状の上り下りなので同じ所を通らない珍しい建物に寄り、そこからは少し山道と階段で白虎隊の墓まで歩いて若松の町を一望しながら悲劇の跡をたどりました。宿に着いて、快い疲れを温泉で癒しながらゆっくり流れる時を楽しみ、おしゃべりに花が咲きます。お食事は二十階の窓際の席が用意されていました。ちょうど夕日がお城の向こうに沈んでいき、食事の終わる頃には夜景がキラキラ。食後にまた露天風呂に行きました。空に浮かんだような気分になれる寝湯に満足の笑顔が並びます。翌日は、鶴ヶ城で見事な桜を堪能。名残を惜しみながら若松駅で解散。青春時代に戻った三日間は満開の桜と明るい笑い声と友の優しさが心に残る素敵な旅でした。また次回には、たくさんの友が参加してくれるといいねと思います。

### オリーブの会

村岡愛子(家12)



平成20年10月11日(土) 午前11時30分～ 渋谷クロスタワー32階 ラ・ロシェル(シェフ坂井宏行)にて 14名出席

### 山手西洋館散策

平成二十年十二月十一日(木) 各地のXマス飾りを楽しむ。



ベリックホール説明中

### クラス会報告

白井悠紀子(英11)

雨に濡れた紫陽花の目に映える六月十・十一日熱海で泊まりがけのクラス会を致しました。三年前にお逢いして以降、エッ!? コンちゃんも亡くなった...、あの人も、この人もがんで治療中...。そんなニュースが飛び込んで来て、今逢える時に会っておこうと。とりあえず、近郊の方々に連絡網でお声かけを致しました。(Bクラスの連絡出来なかった方、ゴメンナサイ) 夫・親の介護等で「泊まりがけは無理」とのお返事の中、十七名が集まりました。社交ダンスにカラオケ、そして温泉につかり、夜中までのオンチャベリは学生時代の話や現況の報告等々、心も体も裸のおつき合いとなりました。 日頃の御無沙汰も何のその、花の短大時代”を共有している者同志だからこそ、このつながりのやさしくて、あたたかいこと!!をいっぴいいっぴい感じた一泊二日の楽しいっどいでした。 予告 二年後(英文科十一期生)昭和三十七年卒業以来半世紀になります。その節は全員(九十八名卒、物故者六名、住所不明十八名)に《同窓会》のご案内を致します。それまで呉々もご健勝でご多幸をお祈りしておりますので是非お会いしましうネ。

# 香葉賞

三月二十四日人間環境学部各課の各課ごとの謝恩会において第二回の香葉賞を贈ることが出来ました。当日、各賞の発表と共にサプライズでの発表でした。山口会長は香葉賞の説明と、香葉会とのつながりを卒業生に伝えました。そして友達の声援に送られて、壇上に上がる卒業生の表情は晴れやかでした。



## 計報

宮川喜代江先生が平成二十一年六月一日に逝去されました。ご冥福をお祈り致します。

## お知らせ

下田先生の記念会を当時の先生方が企画しております。詳しいことは後日HPで御案内いたしますので、ご確認下さい。  
(香葉会事務局)

## 年会費・賛助金のお願い

会員の増えない香葉会では皆様の年会費・賛助金で会の運営を支えています。今までに貯蓄しました財源も大切に使用してはなりません。是非、皆様のご協力をお願い致します。

## 関東学院女子短期大学香葉会

収入の部	H20年度決算	H21年度予算
年会費・賛助金	639,901	700,000
特別会計繰入金	2,000,000	2,000,000
雑収入	26,602	5,000
前年度繰越金	556,547	700,532
<b>合計</b>	<b>3,223,050</b>	<b>3,405,532</b>
支出の部	H20年度決算	H21年度予算
通信費	1,089,110	1,700,000
印刷・製本費	649,026	650,000
企画・会合費	100,927	150,000
交通費	158,730	200,000
消耗品費	8,467	150,000
ソフト費	10,000	20,000
人件費	422,450	300,000
合同同窓会分担金	30,000	30,000
慶弔費	53,362	100,000
雑費	446	5,532
予備費	0	100,000
小計	2,522,518	—
次年度繰越金	700,532	—
<b>合計</b>	<b>3,223,050</b>	<b>3,405,532</b>

## 平成二十年度決算・平成二十一年度予算

年会費・賛助金の名簿を記載しております。年間の「香葉」の送料及び印刷で予算の半分をしめております。卒業時に納入頂いた会費は、その学年により異なっており、時代とともにかかる諸費用も高くなります。皆さまに年会費・賛助金のご協力をお願い致します。

## 香葉会 年会費・賛助金 納入者名簿

皆様のご厚意により、平成20年度のご寄付は639,901円と成りました。香葉会の活動費として有効に使わせて頂きます。皆様のご協力に感謝し、今後ともよろしくお願ひします。(敬称略)

古大庄澤古土内平小林出横大渥佐女田岡匿井口犬  
川島司島郡岐田尾林山川美藤中河松原安喜和  
鈴好恵時綾房駒富イ子子子子子子子子子子子子子  
子恵子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

山石松牧梅辺荒伊山丸谷川鹿石藤越古松永高千二  
本井本野田見井藤本山田上渡渡木智野トシ城坂坂見田  
多恵佳真優裕敬明桂勝敦妙泰朝照協房子子子子子子子  
子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

太中中名川伊山丸谷川鹿石藤越古松永高千二  
田高田内木城川藤鳥沢赤水澤保小坂加菅金田松伊藤藤  
美あ由純葉紗あ江子子子子子子子子子子子子子子子子子  
枝ゆ紀子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

伊中柳平内野平洪鶴松古岩戸石鈴嘉増土竹長柳花  
藤平下田村井谷見友田崎崎谷井木山安直朝広洋幸二淳  
三陽佐節広康洋道敦智明巳洋昭昭滋喜子子子子子子子  
子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

菅川山阿奥納松小馬鈴杉金田五十三富阿桐東上溝佐千  
野上平部村所矢美智正容紫美直節風文正典紀千寿美貴一  
明直洋園絹節貞智正容紫美直節風文正典紀千寿美貴一  
美子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

岡大飯鈴森中坂荒横大川山沖葛岡蜂工藤黒松川喜田鈴本  
崎津田木山井井井川川野野崎谷藤口岡澤岡喜田眞千代  
淑佐実茂禎暁満春幸由美佳啓容子子子子子子子子子子子  
子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

後祖古兩三山森湊藤金藤近匿福足菅保舟飯匿金小峯  
藤父賀宮浦浦口口藤平藤藤藤崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎  
美江恵慶妙世美美美美美美美美美美美美美美美美美美  
和子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

松益峰神桜七齋鈴原有藤藤相厚寺  
尾昌特別崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎崎  
子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子  
子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

## 編集後記

「香葉」年に一度の機関紙、今回も沢山の皆様のご協力により発行することが出来ました。

原稿を快く書いて下さった方々・暑い中、編集に参加し校正に汗を流して下さった方々、皆様の熱意に感謝です。

出来上がった「香葉」、少しでも多くの皆様に興味を持って下さるようにと努力しました。いがかでしたか。

皆様の投稿・感想・ご意見をお寄せ下さい。編集委員一同お待ちしております。